

史学研究会 関係

五月例会

五月七日(土) 午後一時

於京大陳列館会議室

地理的認識の進展からみた

ロシアと北東アジア

押野 昭生氏

西ヨーロッパ封建社会の成立

歸田 豊之氏

六月例会

六月四日(土) 午後一時出発

エクスカリオン 講師 毛利 久氏

光明寺—善峰寺—三鉢寺—勝持寺

国史関係

読史会五月例会 五月一四日(土) 午後一時

於京大陳列館演習室

中世商業について 脇田 晴子

六波羅探題と悪党 上横手雅敬

読史会春季旅行 五月二三日(月)

本年は国史学新専攻生歓迎会をかねておこなわれ、離宮八幡宮—妙喜庵—宝積寺を経て寿屋山崎工場を見学し、現地解散した。

参加者は、新専攻生六名を含む小葉田、赤

松教授、岸・上横手助教授ら三二名。

読史会春季大会 六月一二日(日) 午前九時

於京大文学部第八教室

出稼の形成

高沢 裕一

代金納と地主制

有泉 貞夫

都市の起源について

松山 宏

伊勢神領の形成

門脇 禎二

民本主義の理論的前提

守屋 正通

甲賀の郡中惣について

石田 善人

安芸国三入庄における地頭所領の構造

黒田 俊雄

譜代郡司の性質

大石 良材

籍帳記載の年令について

岸 俊男

大会終了後、文学部会議室において茶話会をもち、梅原末治・牧建二・源豊宗・池田

源太氏ら年長会員の思い出話に懇親のひとときをすごした。

東洋史関係

旧制大学院例会

四月一六日(土) 午後二時

陳列館会議室

唐代の勲官

西村 元佑

元代の簽軍

井ノ崎隆興

六月一日(土) 午後二時

陳列館演習室

苗疆の構造

狩野 直禎

七月九日(土) 午後二時 陳列館会議室

漢代の選挙 杉村 壮三

新制大学院例会

五月一七日(火) 午後六時 神戸屋

中国近世史の方法論について 近藤 秀樹

六月七日(火) 午後六時 築友会館

唐代の塩商について 横山 裕男

六月二一日(火) 午後六時 築友会館

シムボジウム「歴史学者と現代」

考古学関係

四月二七日(水) 午後三時—五時 築友会館

本年度の第一回例会として、新専攻生の歓迎会と三四年级卒業生および四月から天理大

学講師になられた西谷真治氏の送別会をあわせておこなった。長広敏雄教授の「ヨーロッパ

美術旅行」と題する講演と藤岡謙二郎教授の

ヨーロッパ旅行談があつて、ヨーロッパにおける考古学研究の現況を伺うことができた。

訂正 前号所載京都大学卒業論文題目中、

国史学専攻「愚管抄に關して 楠信也」

は誤につき取消します。また「侯野武夫」

は「侯野武史」の誤でしたので、訂正いた

します。

狩野 直禎

会 告

一、アンケートについて

前回の会員名簿発行から、すでに五年を経過いたしましたので、本年末に新会員名簿を発刊いたします。つきましては、同封しました用紙にて、御住所・御氏名・年齢・御専攻をお知らせ下さい。

併せて、『史林一』に対する各位の忌憚のない御意見を御聞かせ下さい。『史林』編集の参考とさせていただきます。

一、社会科教科書の検定に対する声明について

本会におきましては、最近の社会科教科書の検定方針について検討を加えました結果、このまま放置すれば、学問思想の自由をおびやかすおそれがあり、この際、警告を発することは、本会の目的達成のために必要であるとの結論に達し、史学会の提唱する左記声明書を発表することに同意いたしました。なお声明書は、去る五月九日、史学会以下四学会代表によって、文部省内藤初等中等教育局長に手渡されました。

声 明

文部省は、最近あたらしい学習指導要領に基づいて、社会科歴史教科書の検定を実施しているが、これについては種々の議論がなされている。たとえば、検定の過程においてとられている口頭による修正意見の伝達もそのひとつで、この方法には少なからぬ検討の余地がある。またわれわれは、現在の検定方針が史実検討の枠をこえて、歴史事象の解釈にまで及んでいるのではないかと疑念をもつものである。

このような傾向は、歴史解釈の多様性に制限を加え、教科書を画一化するおそれがある。このことは、次代の国民の思想の貧困化をまねき、また研究と思想の自由を脅かす懸念があるといわざるをえない。われわれは、右のような危険があることを指摘して、ここに、文部当局の反省と、検定制度の再検討とを強く要望するものである。

一九六〇年五月三日

- 大阪 歴史学会
- 大塚 史学会
- 史学研究会
- 社会経済史学会
- 日本制度史学会
- 日本史研究会
- 歴史学研究会
- 早稲田大学史学会

編 集 後 記

著さもいよいよ本格的になつてまいりましたが、史学研究学会員みなさまがたにはその後も御清祥のことと存じます。四三巻四号をおとけすることになりましたが、編集部といたしましたは、『史林』のより一層の発展をはかるべく紙面の充実に苦心を重ねております。今回はアンケートを試みてみることにいたしました。つきましては編集の参考にさせていただきます。なるべく多数の御回答をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

思えば五月半ば以来、国内全体をゆさぶる事件がつきつきとおこりました。その余波はなお続いており、これからも続いてまいりましょう。わたくしたち歴史家も深く思いをいたすべき時でございます。 (中村幹雄)

史 林

(第四三巻第四号)

一九六〇年六月二十五日印刷
一九六〇年七月一日発行

定価一八〇円

発行所

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

史学研究会

理事長 宮崎市定

編集主任 赤松俊秀

印刷所

京都市下京区西七条御所ノ内町三五
中村印刷株式会社